

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072600713
法人名	有限会社ラビット
事業所名	グループホーム つるとかめ
所在地 (電話番号)	福岡県行橋市東大橋一丁目3-10 (電 話) 0930-24-3649

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(平成20年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	10人, 非常勤 12人, 常勤換算 5.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1~2階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000・39,000円		その他の経費(月額)	(水道光熱費) 5,000円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月当たり 30,000円			

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数		18 名		男性 6 名		女性 12 名		
要介護 1		8 名		要介護 2 2 名				
要介護 3		2 名		要介護 4 4 名				
要介護 5		0 名		要支援 2 2 名				
年齢	平均	81.7 歳		最低	66 歳		最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	きむらクリニック / 小倉東クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

行橋市の10号線バイパス近くの新興住宅地にグループホームつるとかめは立地しており、周辺はのどかな田園風景もあり、自然を感じることが出来る環境を有している。鉄筋コンクリート造りの2階建ての2ユニットで全体的に広々としている。隣接して住宅型有料老人ホーム「かがやきの家」がある。グループホームつるとかめは、理念である「住み慣れた地域でいつまでも生き生きと暮らし、自分のリズムに合わせたその人らしい普通の暮らし」の実現に取り組んでいる。敷地も広く、中庭には畑や花壇があり、職員と入居者が一緒に園芸を行ったり、外出支援などホームに閉じこもらない暮らしに取り組んでいる。居室は8畳と10畳の2つのタイプがあり、どの居室も洗面台を設置しプライバシーに配慮した造りになっている。地域との連携も「在宅介護を支え合う会」の見学や相談を受けるなど地域における問題にも積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では 地域密着型サービスとしての理念、地域とのつきあい、人権研修の充実、職員を育てる取り組み、介護計画の作成や見直し、重度化に向けた連携体制、災害対策についてなど改善項目として挙がっていた。改善に向けては、ミーティングで話し合い、改善に向けて取り組んでいるが、更なる取り組みや改善が必要であると考えている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ミーティングや定期的な内部研修の中で外部評価を振り返り、具体的な改善に関して意見交換を行っている。自己評価も日々のケアやサービスを振り返り作成している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催していたが、現在は定期的な開催に至っていないため、今後の展開の中で定期的な開催を目指していきたいと考えている。会議は、地域住民代表として区長の参加があり、家族・地域包括支援センターの職員・管理者・ケアマネなどのメンバーで活動状況などの報告や意見交換を行っている。出された意見は、職員会議で取り上げ、サービスの質の向上につなげるように取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の意見や苦情などを書いていただけるように用紙を準備している。また、面会時に家族とのコミュニケーションを図り、気軽に意向や希望などを言ってもらえるように取り組んでいる。家族の意見や意向は、管理者・職員で会議で話し合い解決に向け取り組んでいる。運営推進会議には、家族の参加もあり、開催時には気がついた点や問題点など言ってもらえるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) グループホーム周辺は新興住宅地にあり、若い世代の方が多く、地域との関わりが限られる状況がある。日常的には、散歩や買い物の際に声かけを行い、顔見知りの関係を築くように努めている。ホームで花火大会なども開催し、地域の方との交流を高める工夫も行っている。小学校からの体験学習や学生などの見学を受け入れている。また、「在宅介護を支え合う会」の見学受け入れや相談・対応を行い、「高齢者も元気に暮らすまちを考える会」の集会に参加し、意見交換を行うなど交流を高めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、「住み慣れた地域でいつまでも生き生きと暮らしていけること」を理念に掲げ、地域に根付くグループホームを目指し、事業所として独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	手書きされた理念をホーム内の廊下に掲示し、来訪者からも見やすい位置に掲示している。職員は日々の生活の中で理念を振り返り、理念を意識したケアやサービスの提供ができるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的には、散歩や買い物の際に声かけを行い、顔見知りの関係を築くように努めている。ホームで花火大会なども開催し、地域の方との交流を高める工夫も行っている。小学校からの体験学習や学生などの見学を受け入れている。また、「在宅介護を支え合う会」の見学受け入れや相談・対応を行い、「高齢者も元気に暮らすまちを考える会」の集会に参加し、意見交換を行いなど交流を高めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングや定期的な内部研修の中で外部評価を振り返り、具体的な改善に関して意見交換を行っている。自己評価も日々のケアやサービスを振り返り作成している。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催していたが、現在は定期的な開催に至っていないため、今後の展開の中で定期的な開催を目指していきたいと考えている。会議は、地域住民代表として区長の参加があり、家族・地域包括支援センターの職員・管理者・ケアマネなどのメンバーで活動状況などの報告や意見交換を行っている。出された意見は、職員会議で取り上げ、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。	○	運営推進会議は参加者のスケジュール調整などが難しい状況もあるが、参加できない場合は、欠席届の提出や議事録を送るなど、定期的な開催に向けての工夫が求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者から相談やアドバイスを受け、また手続き・更新時など機会があるごとに話し合い、行橋市介護相談員や地域密着型サービスの相談を通じて指導を得ることで行政との連携に努めている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在、成年後見制度の利用者が2名いる。管理者・職員は成年後見制度に関する理解があり、入居者や家族にいつでもアドバイスができるように書式や手順などの資料を準備し、必要時は活用ができるよう支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康などは家族の面会の際に報告している。家族への報告は、手紙・写真・預り金の立替えに関する明細書・健康状態など確認できるように送付している。「つるとかめ通信」を発行していたが、現在は発行は中断しているため、今後の再開を準備中である。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情などを書いていただけるように用紙を準備している。また、面会時に家族とのコミュニケーションを図り、気軽に意向や希望などを言っていたるように取り組んでいる。家族の意見や意向は、管理者・職員で話し合い解決に向け取り組んでいる。運営推進会議には、家族の参加もあり、開催時には気がついた点や問題点などを言っていたるように取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年2月に代表が変わり、職員の退職と入居者の入れ替わりがあった。また、8月に管理者が代わり、新規に建て直しが行われ、入居者が安心して生活できるようにダメージを極力少くした配慮を行い、現在は顔なじみの関係を取り戻しつつある。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	性別を問わず、笑顔・優しさや気遣い・思いやりや気持ちがある職員の採用を心がけている。職員が能力を発揮し、自己実現を目指して意欲を持って勤務できる環境を目指し取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	入居者の人権を尊重し、常に機会あるごとに研修などにも参加していく方針がある。現状では職員の入れ代わりなどで研修の機会や内容について今後の課題となっている。	○	行政や県社会福祉協議会などの研修情報を把握し、「認知症高齢者にとっての人権尊重」に配慮した研修に参加することが求められる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修計画や内部研修などの取り組みが課題となっている。また、研修の報告や記録の整備が求められる。多様な研修情報を把握し、職員が受講したい研修が受けられるように今後の取り組みに期待したい。	○	外部研修の情報を把握すると共に、内部研修を含めた年間研修計画を立て、研修を受ける機会の確保に期待したい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	生き生きネット学習会の参加がある。京築グループホーム連絡協議会の活動には参加できず、これからの課題となっている。参加できない場合は、発送していただいた会議録や資料をもとに職員間の意見交換や情報交換を行っている。今後の同業者のネットワーク構築に期待したい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族の希望や本人の状況に応じて見学や相談を受け入れている。入居者や家族が安心して納得し、入居できるように体験を希望する方には何度か通っていただきながら、徐々になじみの関係に配慮しながら入居できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、職員と一緒に調理に参加したり、入居者の得意分野を活かした菜園づくり・花の手入れなど、入居者ができることを職員がサポートし、暮らしの中で支えあう関係を大切にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族の意向を把握し、生活暦などアセスメントすることで、これまでの自分らしい暮らし方ができるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は関係者の意見やアイデアを参考に作成しているが、家族への説明は行っているが、「話し合いを行っていない」とする家族がアンケートにより回答を寄せているので、作成した際には、ホーム側の意向も伝え、家族との話し合いを持つことが求められる。	○	家族の意向を反映した介護計画の作成が求められる。
19	39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化やニーズの変化があれば、その都度計画を見直している。現状の看護計画・介護計画に対しサービス内容の評価を行い、介護計画に反映していくことが求められる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域密着型サービスとして、「在宅介護を支え合う会」の見学受け入れや相談・対応を行い、「高齢者も元気に暮らすまちを考える会」の集会に参加し意見交換を行うなど交流を高めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を優先として週1回の往診(きむらクリニック)・月2回(小倉東クリニック)や希望の受診を支援し、医師との情報交換を行い、適切な医療が受けられるように支援している。愛和訪問看護ステーションと医療機連携体制を築いており、訪問診療計画書が求められる。	○	医療連携体制により、訪問診療計画書が求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際のあり方について、かかりつけ医や看護師と十分に話し合い検討している。看取りの経験もあり、関係者や家族を含め段階的に書類の整備を進め、「終末期ケア対応の方針」を作成し、医療との連携や方針を明らかにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーや個人情報保護法の取り扱いには十分理解し、接し方・言葉かけなどの配慮を行っている。研修を通じて個人情報に関する規定や利用目的などを契約時に説明し、家族や職員共に周知徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ入居者の希望や意向を把握し、昼食や夕食時間は決めてあるが、その他は自由に個別に柔軟な対応を行い、自分の家と同様に自分の暮らしのリズムにそった暮らしができるように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園の季節の収穫物を利用したり、買い物・調理・食事・後片づけを一緒にを行い、職員は入居者と共に食卓を囲み、楽しく食事ができるように支援している。料理の好みや健康状態に応じたメニューも工夫している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や曜日は一応決まっているが、入居者の希望や状況により、変更は可能となっている。入居者一人ひとりが回数にとらわれず希望にそって、ゆっくり入浴できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で洗濯物たたみ・食器洗い・調理下準備の手伝いなど個人に合った役割があり、居室の掃除なども積極的に行っている。これまでの暮らしの習慣を大切にし、入居者ができることは行っていくように取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月、レクリエーションを取り入れた外出支援を行っている。家族の方にも参加や同行をお願いしている。食材の買出しにドライブを兼ねた買い物同行などの支援や入居者がホームの中だけで過ごさず、日光浴を兼ねてストレスが発散できるように支援している。個別に気軽に外出できるように支援しており、各ユニット間を行き来し交流を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを実現するため施錠はしていない。1階・2階のユニットの出入りも自由でエレベーターの利用が可能である。夜間・日中を問わず鍵をかけないケアを実践している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	行橋市消防本部との連携で年に1回、災害を想定した避難訓練を行っている。緊急時避難経路などの掲示もある。緊急連絡体制や連絡網があり、その他にも消防訓練や通報訓練を写真で確認できる。火災時の処置の仕方・消防への通報など資料で確認できた。今後の平成21年4月以降の防火安全対策について検討している。夜間の災害なども予測でき、地域住民の協力体制が求められる。	○	地域の方の協力が得られるように運営推進会議などで取り上げ、地域との連携を高めていくことが求められる。まずは、避難訓練の見学など、できることから参加をお願いしたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの好みや体調に応じ、調理方法・嗜好などを考慮し、栄養バランスが取れた食事が提供できるように努めている。1日全体を通じて食事摂取量・水分摂取量を記録している。毎日記録することで日々の状態把握や往診時のかかりつけ医や看護師による健康状態の把握となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	共有空間は、ゆったりと思いいに過ごしていただけるように、ソファやテーブルの配置などに工夫がある。リビングと台所は家庭的な雰囲気づくりに工夫があり、畳のコーナーもある。季節感を感じることができるように季節の花が飾られ、折り紙や貼り絵など季節ごとの作品が廊下に掲示されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	各部屋には洗面台が備えつけられ、プライバシーに配慮した空間となっている。居室の入り口には、名札や暖簾をかけ、わかりやすいように工夫している。ベッドで眠る方と布団やマットレスで眠る方など、入居者の状態に応じた支援を行っている。今後は、入居者の住まいとして、なじみのある家具や生活用品・装飾品などを持参していただくように働きかけていきたいと考えている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			